

第20回
石綿・中皮腫研究会

プログラム・抄録集

会期 2013年9月28日土

会場 (公財)がん研究会がん研究所「吉田講堂」

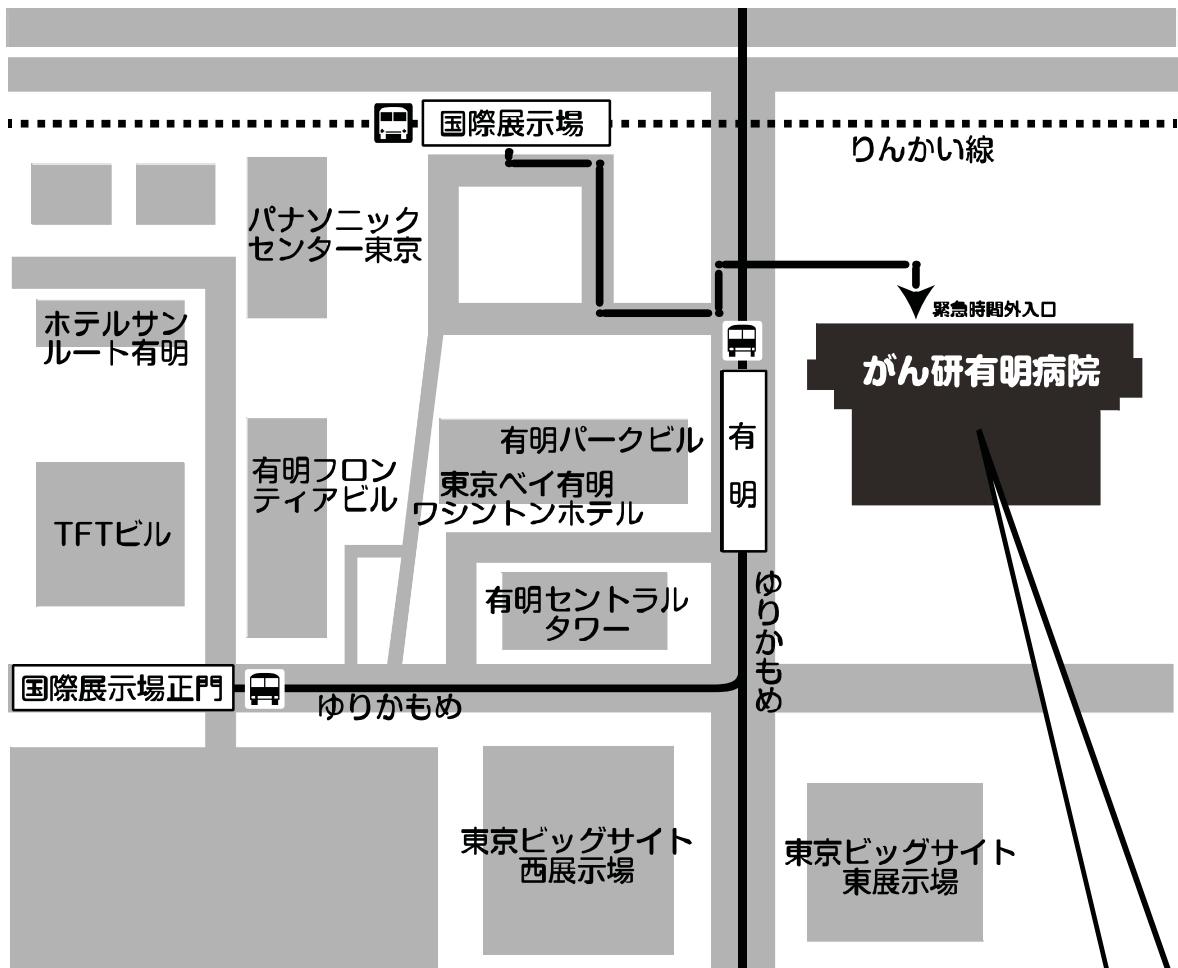
〒135-8550 東京都江東区有明3-8-31 TEL:03-3520-0111(大代表)

世話人

がん研究所 病理部 部長

石川 雄一

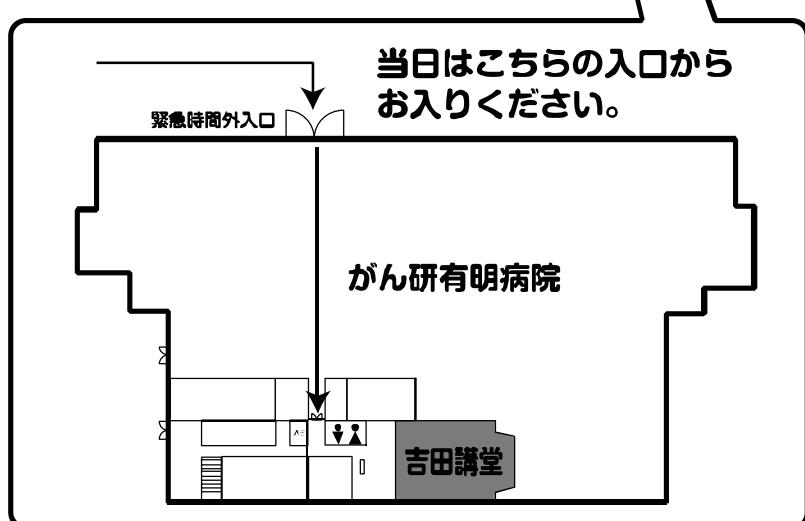
■会場へのアクセス



(公財)がん研究会がん研究所
1階「吉田講堂」

〒135-8550
東京都江東区有明3-8-31(臨海副都心)

■りんかい線国際展示場駅から徒歩1分
■ゆりかもめ有明駅から徒歩2分



■ プログラム

◆開会挨拶 (10:00~10:05)

石川 雄一 先生(がん研究会)

◆一般演題 I (10:05~11:15)

座長:木村 清延 先生(北海道中央労災病院)

大西 一男 先生(神戸労災病院)

1.p16遺伝子欠失解析(FISH法)による二相型中皮腫と上皮型中皮腫の鑑別

吳 迪 先生(東京女子医科大学八千代医療センター)

2.胸腔内Multicystic Mesotheliomaの1例

岩田 剛和 先生(千葉大学)

3.孤立性両側副腎転移を伴った悪性胸膜中皮腫の一例

久能 英法 先生(大阪府立成人病センター)

4.石綿ばく露によるびまん性胸膜肥厚における、画像所見と肺機能障害に関する解析

藤本 伸一 先生(岡山労災病院)

5.CD90は中皮腫と肺腺がんを鑑別できるマーカーである

田川 雅敏 先生(千葉県がんセンター)

6.良性石綿胸水から著しい呼吸機能障害を伴うびまん性胸膜肥厚を来す期間に関する検討

岸本 卓巳 先生(岡山労災病院内科)

7.石綿曝露者の肺機能について

川村 猛夏 先生(奈良医療センター)

◆ワークショップ (11:15~12:30)

座長:武島 幸男先生(広島大学大学院)

石川 雄一 先生(がん研究会)

1.腹腔内に多発し卵管にも存在した高分化型乳頭状中皮腫の1例

辻村 亨 先生(兵庫医科大学)

2.高分化型乳頭状中皮腫類似の病変を伴った上皮型悪性胸膜中皮腫の1例

鍋島 一樹 先生(福岡大学)

3.当院で経験したWDPMの2例

:宮 浩範 先生(がん研究会)

4.10年以上の経過をとった高分化型乳頭状中皮腫の一例

津浦 幸夫 先生(横須賀共済病院)

5. Well differentiated papillary mesothelioma(WDPM)の一例

-WDPM類似のepithelioid mesothelioma症例との比較検討を中心として-

前田 昭太郎 先生(三菱化学メディエンス 病理細胞診センター)

6. 【ワークショップ 中皮腫パネル症例】

中皮腫パネル等で経験した

Well-differentiated papillary mesotheliomaおよび類似病変の供覧

武島 幸男 先生(広島大学)

7. 【ワークショップ 診断基準】

高分化乳頭状中皮腫; その定義、分類、問題点

相田 貞介 先生(国際医療福祉大学)

◆昼 食* (12:30~13:00) *昼食は隣接した部屋に用意します(事前登録は不要です)

◆ランチョンセミナー (13:00~13:40)

座長:三浦 薄太郎 先生(横須賀市立うわまち病院)

- 1.共催挨拶 環境再生保全機構
- 2.石綿関連疾患救済法の新しい認定基準と留意事項の臨床分野の解説
岸本 卓巳 先生(岡山労災病院)
- 3.石綿救済法の新認定基準と留意事項(病理)
廣島 健二 先生(東京女子医科大学八千代医療センター)

◆総会 (13:40~14:00)

◆一般演題Ⅱ (13:30~14:00)

座長:由佐 俊和 先生(千葉労災病院)

8. 気胸を契機に発見された悪性胸膜中皮腫の検討
青江 啓介 先生(山口宇部医療センター)
9. 悪性胸膜中皮腫における肺内石綿小体数と胸膜プラークと肺間質影の検討
岡部 和倫 先生(山口宇部医療センター)
- 10.石綿肺の病像の検討(建設業中心)とその相違に関する考察
名取 雄司 先生(ひらの亀戸ひまわり診療所)
- 11.石綿長期曝露制御性T細胞株における細胞周期制御因子の発現動態の解析
李 順姫 先生(川崎医科大学)
- 12.看護師向け胸膜中皮腫ケア教育プログラムの開発と実施
長松 康子 先生(聖路加看護大学)

◆休憩 (14:50~15:00)

◆シンポジウム (15:00~17:30)

座長:稻瀬 直彦 先生(東京医科歯科大学)
大林 千穂 先生(奈良県立医科大学)

- 1.石綿代替繊維の発がん性評価の現状
高田 礼子 先生(聖マリアンナ医科大学)
- 2.光学生物顕微鏡を用いた気管支肺胞洗浄液中からの石綿小体の簡便な計量法
～その計量法の実際・計量値の臨床的意義・計量法としての精度について～
河原 邦光 先生(大阪府立呼吸器・アレルギー医療センター)
- 3.腹膜悪性中皮腫と鑑別を要する婦人科腫瘍
清川 貴子 先生(千葉大学)
- 4.未定
大久保憲一 先生(東京医科歯科大学)
- 5.悪性胸膜中皮腫に対する診断法と標準的治療の構築
—英国MARS studyの後、何を優先すべきか？—
中野 孝司 先生(兵庫医科大学)
- 6.今の中皮腫治療:免疫療法、遺伝子治療、分子標的治療
稻瀬 直彦 先生(東京医科歯科大学)
- 7.シンポジウム・ディスカッション

◆会員懇親会* (17:30~) *懇親会参加費(¥1,000)は研究会参加受付時にお支払い下さい。

ランチョンセミナー1

石綿関連疾患救済法の新しい認定基準と留意事項の臨床分野の解説

○岸本卓巳
岡山労災病院 内科

石綿による健康被害の救済に関する法律における指定疾病に係る医学的判定に関する考え方等が
平成25.6.18に改正となった。

その要点について述べる。

1. 石綿肺癌に係る改正

- ① 胸部正面エックス線写真により胸膜プラークと判断できる明らかな陰影が認められ、かつ、胸部CT写真により当該陰影が胸膜プラークとして確認されるもの、この場合において、胸膜プラークと判断できる明らかな陰影とは以下の(1)又は(2)のいずれかに該当する場合をいう
 - (1)両側又は変則の横隔膜に、太い線状又は斑状の石灰化陰影が認められ、肋横角の消失を伴わないもの
 - (2)両側側胸壁の第6から10肋骨内側に、石灰化の有無を問わず非対称性の現教性胸膜肥厚陰影が認められ、肋横角の消失を伴わないもの
- ② 肺組織切片中に石綿小体が認められるもの

以上の所見のある症例に発生した原発性肺癌は認定の対象とする。

2. びまん性胸膜肥厚に係る改正

- 胸部単純エックス線写真により、肥厚の厚さが5mm以上であることを確認すると言う肥厚の厚さ要件を廃止し、胸部単純エックス線写真と胸部CT写真により総合的に評価する
- その他の認定基準は現行どおりである。

石綿肺及び石綿によるびまん性胸膜肥厚の認定基準についても述べる。

ランチョンセミナー2

石綿救済法の新認定基準と留意事項（病理）

○廣島健三

東京女子医科大学八千代医療センター・病理診断科

【肺癌】

1. 標準的な肺組織の薄切標本に十分な長さの石綿小体が光学顕微鏡で確認された場合には、肺がんの発症リスクを2倍以上に高める量の石綿ばく露があったとみなされる。
2. 申請時にその旨を記載し、石綿小体の標本又は写真を添付する。

【中皮腫】

1. 申請時に、可能な限り、病理組織診断ではH&E染色標本、細胞診断ではパパニコロウ染色標本（セルブロック標本の場合はHE染色標本）を提出する。
2. 中皮腫の診断には、陽性抗体及び陰性抗体をそれぞれ2抗体以上確認する。
3. 上皮型中皮腫の診断には、陽性抗体としてcalretinin, WT1, D2-40を用いることが推奨される。CK5/6やthrombomodulinは扁平上皮癌でも陽性になるため、注意が必要である。胸膜中皮腫の場合は陰性抗体としてCEA及び、TTF-1、NapsinA、PE10を検討する。女性の腹膜中皮腫の場合には、MOC-31、Ber-EP4に加え、estrogen receptor(ER)、progesteron receptor(PgR)を確認する。なお、WT1は卵巣漿液性腺癌でも高率に陽性となる。
4. 肉腫型中皮腫および線維形成型中皮腫は、陽性抗体としてCAM5.2やCK AE1/AE3を、陰性抗体としてS100、CD34、 α SMAなどを用いる。CAM5.2、CK AE1/AE3の両方が陰性である場合は、肉腫の可能性が高い。
5. 上皮型中皮腫と反応性中皮細胞の鑑別には、Glut-1、EMA、desminを用いる。
6. 線維形成型中皮腫と線維性胸膜炎の鑑別には、紡錘形細胞の異型性、浸潤性増殖、壊死、明らかな肉腫様成分、転移巣の存在を確認することが重要である。Zonationが存在する場合やdesminが陽性である場合は、線維性胸膜炎であることが多い。
7. 細胞診断における上皮型中皮腫の診断に係る免疫染色は、病理組織診断に準じて実施する。体腔液標本に対して多数の免疫染色を行うためには、セルブロック法や細胞転写法が有用である。

【参考文献】

1. 平成23年度環境省請負業務. 平成23年度石綿関連疾患に係る医学的所見の解析調査業務（病理組織標本における石綿小体計測及び胸腔鏡所見による認定基準の見直しに関する調査編）. 東京女子医科大学. 主任研究者 廣島健三.
2. Husain AN, Colby T, Ordóñez N, et al. Guidelines for Pathologic Diagnosis of Malignant Mesothelioma: 2012 Update of the Consensus Statement from the International Mesothelioma Interest Group. Arch Pathol Lab Med 2012;136:1-21.